

平成29年第2回 高千穂町議会定例会

一般質問通告内容集約書

高千穂町議会事務局

【 6名 9件 】

質問日	順	質問者	件数	件名	頁
6月19日(月) 10:00~	1	谷川秀憲 議員	1件	1. 認知症による行方不明者の捜索について	1
	2	佐藤久生 議員	1件	1. 高千穂町まちづくりについて	2
	3	飯干清喜 議員	2件	1. 各種事業補助金について 2. 勉学について	3
	4	中島早苗 議員	1件	1. 高齢化社会の認知症対策と施設の整備について	4
	5	本願和茂 議員	1件	1. 温泉経営改善策について	5
	6	戸高清次 議員	3件	1. 外国人旅行者受入環境整備について 2. 認定農業者の認定基準の緩和について 3. 兼業農家の支援策について	6

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
1	谷川秀憲 議員	1. 認知症による行方不明者の捜索について	<p>超高齢化社会を迎えている今日、(この町でみんながいいき元気に楽しく)を目標にみんなで支え合う元気な地域づくりを推進している本町では、げんき荘において「認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できる町づくり」に力を入れており、認知症について正しく理解し、認知症の方の見守りや対応について学び認知症サポーターに認定されている方が累計1,797名おられ、日々活動しておられるところですが、先日、重度の認知症で日々徘徊をしておられた方が行方不明となり消防団等大勢で3日間捜索を行い、4日目は地域住民全員参加で地域をくまなく捜索を行いました、何の手がかりも得る事が出来ずご家族のご理解により、やむなく5日目からの捜索は打ち切りとなりました。</p> <p>認知症による徘徊については、家族や地域の見守りではすでに限界に来ていると思います。</p> <p>スマートフォンやパソコンを使って、大切な人を遠くから見守るイマドコサーチサービスがあります。1台のスマートフォンで5人・1台のパソコンで100人の居場所が確認できます。</p> <p>確かに素晴らしいシステムですが、高齢化社会では個人の対応には無理があります。</p> <p>そこで提案ですが、行政で子機を数台購入して、希望される個人に貸し出しを行い集中管理することで、今回のような事故の場合即座に居場所の確認する様なシステムづくりに取り組む事は出来ないかお伺いします。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
2	佐藤久生 議員	1. 高千穂町まちづくりについて	<p>3月議会において奈須議員が魅力ある観光地の町づくりについて一般質問を行っていますが、重複するところもあるかと思いますがよろしくお願い致します。</p> <p>平成27年度から三田井地区、平成28年度から岩戸地区がそれぞれ地区住民との協議会やワークショップを開催されているようですが、今回は三田井地区に関する質問とします。</p> <p>29年3月に第1回三田井地区まちづくり協議会ワークショップが開催され、その報告のまちづくりかわら版をみてみますと安全対策とか歩道の舗装、照明など非常に細かいところまで協議されており、感心しているところです。</p> <p>観光客の入込数も熊本地震のあと、当初は入込数減により大変心配されていたところですが、徐々にもどりつつあるとのことですが、そこで次のことについて質問します。</p> <p>① 3月、奈須議員の質問の答弁に、県道諸塚・高千穂線の城山通りから高千穂神社前の交差点間と町道高千穂神社道線を交換すると言う答弁でしたがその後の進捗状況はどうなっているのか。</p> <p>② 人が歩かないと金もおちないし、町中の発展はないと考えます。そこで、高千穂神社とくしふる神社を結ぶ道を充実させる為、神楽の1人舞から3人舞ぐらいまでの石像か、ブロンズ像のモニュメントの数を増やし「あなたも神様に逢えます」と言う様な歩くコースの設定はできないか。</p> <p>③ 神殿通りの空家対策として新たに商店、食堂を始める人がいますが、町づくりに積極的に取り組む人にたとえば商工会等を通して今後町で協力できる様な対策はないか。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
3	飯干清喜 議員	1. 各種事業補助金について	<p>毎年 農林業、商工会等多くの事業者にも多額の補助金が使われている。大きな手助けにもなっていると思われるが、効果の検証と公開も必要ではないか。</p> <p>また、その事が、事業者の収益増加となつて、ひいては町民税の増収につながる事が検証されれば、役場も胸を張れるのではないのでしょうか。</p> <p>個人事業者だけでなく、観光協会、商工会、森林組合等についても補助金や貸付金の効果をしっかり検証し、あつてあたりまえ的な補助金ではなく、その事でしっかり独立経営につながるような、指導も必要ではないのでしょうか。</p>	町長
		2. 勉学について	<p>高千穂の子供達でも、能力があれば、先生方の力によって将来東京大学入学は可能でしょうか。</p> <p>高千穂高校野球部や相撲部が大活躍です。特別の選手が多いとか、少年クラブ等も無い地域ですので、指導者によるところも大きいと思われます。小中学校も含めて今後各競技の指導者の育成や確保にどのように取り組まれるのか、お伺いします。</p>	教育長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
4	中島早苗 議員	1. 高齢化社会の認知症対策と施設の整備について	<p>① 認知症は「老化による物忘れ」と違い、脳の神経細胞が壊れるために起こる、症状や状態をいいます。</p> <p>そのため認知症に対しては、早期発見、早期相談、早期支援が重要であります。</p> <p>日向市では、パソコン、スマホなどから簡単にチェックできる「認知症簡易チェックサイト」をホームページに設置。</p> <p>本町でも、認知症の早期発見、相談支援体制の充実のための認知症簡易チェックの導入ができないかお伺いします。</p> <p>② 国は平成24年4月に策定した認知症施策5ヶ年計画オレンジプランの中で認知症カフェを今後の対策の柱の一つとしています。</p> <p>本町では高齢者が楽しく集える場所として、いきいきサロン事業が行われています。</p> <p>このサロン事業が、認知症カフェとしての相談体制の機能をもった取り組みとして、町として拡大発展させる考えはないかお伺いします。</p> <p>③ 中央公民館では、様々な文化活動やもよおしが行われています。</p> <p>平成29年3月の利用者数は、1,142人で高齢者の方達も多く利用されております。</p> <p>環境はいいのですが、施設は古くてトイレや階段など足腰が悪いと大変です。</p> <p>高齢者の方達に配慮した、スロープの設置ができないかお伺いします。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
5	本願和茂 議員	1. 温泉経営改善策 について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温泉経営を始めた経緯とこれまでの経営改善策について ・ 累積赤字の額を町民や観光客などの利用者に、もっと周知すべきではないか。 ・ 県内及び県外の自治体が経営する温泉の状況について ・ 健康増進や予防医療の拠点として利用していく取組みは出来ないのか。 ・ 今後も累積赤字が膨らみ続けた場合の対応は。 ・ 5年計画で経営改善のスペシャリストを採用し黒字化に向けて取組む考えはないか。 <p>高千穂温泉、岩戸温泉、両方を質問します。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
6	戸高清次 議員	1. 外国人旅行者受 入環境整備について	<p>本町の観光客入込数は、平成27年が161万6,200人、平成28年は熊本地震の影響で、116万6,300人でした。</p> <p>そのような中近年、高千穂町における外国人旅行者、いわゆるインバウンド入込数は、平成24年度に20,600人、平成27年度には67,000人となり平成28年度までの5年間について前年比の平均をとると、189%という増加傾向にあり、平成29年度の入込数が10万人を超えると予測されます。</p> <p>高千穂町観光協会が外国人を対象にしたアンケートの調査結果では、アクセスや飲食店の利便性に加えて、言語によるコミュニケーションに関して指摘がなされていたとのことです。</p> <p>指摘内容の主なものは、バスの便数が少ない、交通が不便、看板等がなく道が分かりづらい、英語を話せる人がいない、多言語サイトが閲覧できない、営業している飲食店が少ない、などであります。</p> <p>このことから、インバウンド入込数は、増加していますがその対応に追いついていないのが現状であります。</p> <p>それらを踏まえて今後、課題解決のために早急に取り組むべきことは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光スポットへのアクセス看板の充実及び二次交通の充実化 2. 通信環境（Wi-Fi）の整備 3. 飲食店や旅館における多言語対応 4. 多言語対応に係る人材育成 <p>などが、挙げられます。</p> <p>行政としてどのような対策を考えて対応されるのか、具体的に伺います。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
6	戸高清次 議員	2. 認定農業者の認定基準の緩和について	<p>認定農業者の認定基準の緩和を行うことにより、役場、農協その他の企業、事業所を退職後に農業に従事し、すぐに農業収益を確保しようとするなら、就農準備として、退職の数年前に認定農業者になっておくことで、施設、機械整備、機械導入を行う場合、農業関係の資金を有利に活用することができ、スムーズに農業に従事出来るのではないかと考えます。</p> <p>また、中山間直接支払制度においても、集落協定の取り組み目標の項目の中に認定農業者の育成、及び認定農業者の人数目標達成の要件が示されており、集落によっては、目標人数の確保が困難な地域もあるとのことであります。</p> <p>そこで、認定農業者の認定基準の見直しを図る必要があると考えますが、町長の考えを伺います。</p>	町長
		3. 兼業農家の支援策について	<p>本町の基幹産業である農林業は、従事者の高齢化と担い手不足など、厳しい環境の中に販売農家戸数は、1,071戸で、専業農家戸数が419戸、兼業農家戸数が652戸で、兼業農家の中でも第1種兼業農家が165戸、第2種兼業農家が487戸となっています。</p> <p>本町の農業を支えている担い手は兼業農家が多く、現在の認定農業者数は、216経営体であり、認定農業者ならではのメリットを受けられない農業者が大半であります。</p> <p>そこで、認定農業者でない兼業農家を対象とした農業者への町独自の支援策に取り組むことは出来ないか伺います。</p>	町長